

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670700574
法人名	合資会社 喜助
事業所名	グループホームなでしこ
訪問調査日	平成 20 年 10 月 7 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 3 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月26日

【評価実施概要】

【評価実施機関】

事業所番号	670700574		
法人名	合資会社 喜助		
事業所名	グループホームなでしこ		
所在地 (電話番号)	山形県鶴岡市斎藤川原字林俣234-28 (電 話) 0235-25-5613		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年10月7日	評価確定日	平成20年12月3日

【情報提供票より】(平成20年9月5日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12人, 非常勤 6人, 常勤換算	15.5人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	造り
	2 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	1,500円 他実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 100,000 円	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 880 円		

(4)利用者の概要(9月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低 72 歳	最高 97 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	菊地内科クリニック、黒谷歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「のんびり ゆたかに ゆったりと」「あせらず あきらめず あなどらず」「叱らない 否定しない 拘束しない」という内容に、「地域の中で、その人らしく生活できるようサポートします」という内容を加えたホーム独自の運営理念に基づき、「一期一会の精神」を日々のケアの中にも細やかに生かしながら、「家庭的でゆったりとした暮らしの支援」がなされています。また、新興住宅街にも近い「地の利」を活かして、地域の一員としての活動や幼児から高齢者までの幅広い交流にも積極的に取り組んでいるグループホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	近隣の方に事業所内の防災設備を見てもらったり、定期的な避難訓練に参加してもらうことにより、災害時の協力依頼につながられる取り組みを進めている。また、町内会や地区消防団への働きかけ、防災委員が中心となった「備蓄」の検討など、幅広い取り組みを進めようとしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で評価の意義を理解しながら、3ヶ月かけて評価項目ごとの検討がなされており、また、運営推進会議でも具体的な改善に向けての話し合いが行なわれ、職員全員で前回評価を活かした改善に取り組んできている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は2ヶ月に1回開催されており、利用者や近所の住民も参加し活発な話し合いが行なわれている。また、前回評価の改善点を討議し、アイデアを出してもらってサービスの向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や運営推進会議などで、家族の意見をより多く把握するようにしており、家族から出された意見をもとにした例としては、各部屋ごとに面会簿を置き、家族が面会者を把握できるようなスタイルを取り入れた例がある。また、外部の苦情相談窓口も、パンフレット等で家族に周知されている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会には法人として加入しており、町内会行事(総会、いきいきサロン、芋煮会、神社の奉納祭など)にも参加している。また、地域の中学生の体験学習や近所の幼児や小学生との交流も盛んに行なわれている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で地域密着型サービスの役割を検討し、運営理念に「認知症になられても、住み慣れた地域の街の中で、その人らしく生活できるようサポートします」という内容を理念に追加した、事業所独自の運営理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有と実践を目指し、出勤時やミーティングに唱和することにより、基本に立ち返る習慣を養っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には法人として加入しており、町内会行事(総会、いきいきサロン、芋煮会、神社の奉納祭など)にも参加している。また、地域の中学生の体験学習や近所の幼児や小学生との交流も盛んに行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価の意義を理解しながら、3ヶ月かけて評価項目ごとの検討がなされており、また、運営推進会議でも具体的な改善に向けての話し合いが行なわれ、職員全員で前回評価を活かした改善に取り組んできている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催されており、利用者や近所の住民も参加し活発な話し合いが行なわれている。また、前回評価の改善点を討議し、アイディアを出してもらってサービスの向上に取り組んでいる。		

山形県 グループホームなでしこ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市独自のサービスである「見守り支援員」の実習や介護相談員の受け入れをしており、市の担当者と連携を取りながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ケアプランや健康、暮らしの様子などが、毎月、担当者から家族に個別に報告されている。また、季刊の「きすけ新聞」も写真を多く用いることにより、生活ぶりがより伝わると好評を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議などで、家族の意見をより多く把握するようにしており、家族から出された意見をもとにした例としては、各部屋ごとに面会簿を置き、家族が面会者を把握できるようなスタイルを取り入れた例がある。また、外部の苦情相談窓口も、パンフレット等で家族に周知されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者と職員の「馴染みの関係」が継続できるよう配慮している。また、止むを得ない異動や交代があった場合は、一人ひとりの情報をできるだけ細かく引き継ぐことにより、利用者へのダメージを防ぐように注意している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員を選任し、段階に応じた個別の研修年間計画もたて、働きながら学ぶ体制を法人内で作り上げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会(グループホーム部会)で他事業所との交流を図ったり、交換実習や研修を通して、職員が互いに向上できる取り組みを進めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で食料の買出し、ゴミ出し、拭き掃除など、利用者と職員が一緒に行いながら喜怒哀楽を共有し、互いに支え合う関係ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや意向について、認知症ケアのための方式を用いた課題の把握や分析、法人独自の様式の活用が行われている。また、家族や関係者とも話し合い、本人本位に検討されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の「サポートメモ」を活用して、一人ひとりの「ケアの課題」がチームで検討されており、個別介護計画が作成できている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にも介護計画の見直しは行いが、状態変化があれば関係者と話しあい、介護計画の見直しとケアの見直しが随時行なわれている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	かかりつけ医との関係にも気を配りながら通院できるよ うに配慮されており、往診も行なわれている。また、その 際には健康状態などの情報をできるだけ細かく提供 し、より適切に医療が受けられるように支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	今までに看取りをしたケース(3名)もあり、重度化や重 症化した場合、家族や本人、医師との十分な話し合い と方針の共有が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	利用者の尊厳を守り、プライバシーを損ねたり、子供扱 いしたりしないよう、さりげなく優しい接し方で対応され ている。また、守秘義務について中身の濃い職員研修 も行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に合わせ、散歩やドライブ、趣味活動 (刺し子、ちぎり絵、歌)、近隣の幼児達とのふれあいな どが、それぞれの希望に添いながら支援されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、下ごしらえ、調理、配膳、後片付けまで、利用者と職員と一緒に、共に楽しみながら行っており、一日の大事な活動の一つになっている。また、誕生会や週3回の「お好みフリーメニュー」も楽しみの一つになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の習慣や希望に添った個別支援を心がけており、入浴を楽しむための上手な声掛けや介助がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「張り合いのある一日」を過ごせるように、掃除や食事作りなどの家事、得意な趣味を活かした教え、教えられる活動などを通して、楽しみ事を増やせるように働きかけている。また、テレビ体操や竹踏み、ミニ運動会など、体を動かすことも活力の源になっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	遠出やドライブ、近所の喫茶店やファミリーレストランの利用など、利用者の希望に添った支援に年間を通じて取り組まれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	日中は玄関に施錠をせずに、自由に出入りができ、職員の見守りによる個別支援が行われている。また、便通を整えることも徘徊を減らすことに繋がり、鍵を掛けないケアの実践に役立っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の方に事業所内の防災設備を見てもらったり、定期的な避難訓練に参加してもらうことにより、災害時の協力依頼につなげられる取り組みを進めている。また、町内会や地区消防団への働きかけ、防災委員が中心となった「備蓄」の検討など、幅広い取り組みを進めようとしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は個別に確認し、過不足のないよう支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはソファーや「畳コーナー」があり、思い思いに過ごせるようになっている。また、季節の花や飾りつけ、自然の風を入れるなど、ホームの中でもできるだけ心地よく過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドと整理箆箆が備え付けてあり、さらに使い慣れた好みの家具等を持ち込み、安心して暮らせるように配慮されている。		